熊本大学教育実践研究　第38号，123－128，2021

知的障害特別支援学校 中学部での道徳的価値を育む授業づくり

「特別の教科 道徳」における授業内容設定の考え方と代弁的・翻訳的な（補助自我）支援の在り方

日置健児朗*・本吉大介**・今井伸和**・高崎文子***

Special support school for intellectual disabilities Creating classes to nurture moral values in junior high school concept of class content setting in “special subject morality” and How should be support for spoken and translational（sub-ego）

Kenjiro Hioki, Daisuke Motoyoshi, Nobukazu Imai and Fumiko Takasaki

1．はじめに

平成29年度告示の特別支援学校小学部・中学部学習指導要領では，初めて「特別の教科 道徳」が位置づけられた．全国の知的障害特別支援学校では，これまでも道徳の授業が行われているが，実践例の報告が少なく，児童生徒の発達段階に応じた題材の設定，各教科等とどのように関連付けるのか，言語化に困難を抱える児童生徒の学びをどのように見取っていくのか，などの課題がある．

熊本大学教育学部附属特別支援学校（以下，本校）中学部では，平成29年度から道徳の時間を特設し，授業実践に取り組んでいる．当初は，既存の教科書や動画コンテンツを活用して学習を行っていた．しかし，動画の内容や複数の登場人物の状況把握，それぞれの人物の気持ちや考えへの理解など，複数の情報を総合的，複合的に考えながら理解するには難しい状況が見られた．

小学校学習指導要領解説「特別の教科　道徳」において，道徳教育は学校や児童の実態などを踏まえ設定した目標を達成するために，道徳科はもとより，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて行うことを基本として，あらゆる教育活動を通じて，適切に行われなくてはならない．その中で，道徳科は，各活動における道徳教育の要として，それらを補ったり，深めたり，相互の関連を考えて発展させたり，統合させたりする役割を果たすと述べられている．また，学校の教育活動や日常生活の体験的行為や活動を通して，様々な道徳的価値に触れ，多様な感じ方や考え方に接する中で道徳的価値の意義などについて考えを深めたり，自己を見つめたりする指導の工夫の大切さについても述べられている．

そこで，各教科等での経験を道徳の内容項目と関連付けて取り組むことで，多面的・多角的に自分のこととして捉えやすくなるのではないかと考えた．また，教師が授業の中で代弁的あるいは翻訳的な役割を担うことで，生徒の気持ちや考えを伝える一助になり，道徳性を養うことにつながるのではないかと考える．以上を踏まえて取り組んだ授業実践について報告する．

図１　関連図

2．取組の概要

1）第１次（平成29年度）

年間４時間（前後期　各２時間）の学習時間を特設し，中１から中３までの一斉授業として取り組んだ．視覚優位である生徒も多いことから動画コンテンツ（NHK for school）を活用して授業を行った．

課題として，内容や登場人物の関係が複雑なこともあり，生徒の理解を促すためには，一つ一つの内容を結びつけるなどの解説が必要であった．また，視聴者的観点で登場人物の気持ちを考えるため，自分のこととして捉えにくかった．

* 熊本大学教育学部附属特別支援学校
** 熊本大学大学院教育学研究科
*** 熊本大学大学院人文社会科学研究部

２）第２次（平成30年度）

年間７時間を特設し，一斉授業で継続して取り組んだ．各教科等や行事等と，道徳の内容項目を関連させた題材とし，生徒が体験したことを写真や動画で振り返ったり，そのときに感じた気持ちや考えを話し合ったりできるようにした．

３）第３次（令和元年度）

時数を年間35時間（特設としては，20時間．残りの15時間は各教科の学習の中で関連させて取り扱った.）に設定して取り組んだ．一斉授業は継続し,生徒の発達段階に応じてグループに分かれて取り組んだ．また，新たに道徳の内容項目Ｃ「主として集団や社会との関わりに関すること」（勤労や公共の精神など），項目Ｄ「主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること」（生命の尊さ，自然愛護など）を取り扱うこととした．

４）各教科等と道徳の項目とを関連させた題材設定と授業形態

各教科や生活単元学習，行事等と小学校学習指導要領「特別の教科　道徳」第２節　内容項目（Ａ～Ｄ）の指導を関連させることとした．そこから中学部のカリキュラムと照らし合わせ，体験的な内容が含まれる学習や行事等を選定した．授業で経験したもののうちで記憶に新しいことや，相手を意識した関わりが多いものを検討し，題材を設定した．また，友達と意見交換をして共感し合えるように，全員参加の一斉授業を基本とした．題材によっては，より丁寧に自分自身を振り返ったり，他者の心情を理解するためにロールプレイをしたりしながら，考えを深められるようにグループ別授業を行った．

５）代弁的・翻訳的支援

本校は平成24年から自立活動におけるコミュニケーションの学習に取り組んだ．この授業で培った指導支援と心理劇の手法を応用し，教師が生徒の内面の気持ちを代弁したり，考えを整理して翻訳的な役割をしたりするようにした．自分の考えや気持ちを表現することが苦手な生徒に，教師が気持ちを表す語彙などを提示して表出のきっかけを作ったり，気持ちや考えを整理してまとめたりすることができるようにした．

６）授業の流れ

①学習内容（題材等の確認）

導入では，自作のスライドを用いて，学習内容について簡潔に説明するとともに，自分のこととして考えられるよう，題材を提示するようにした．

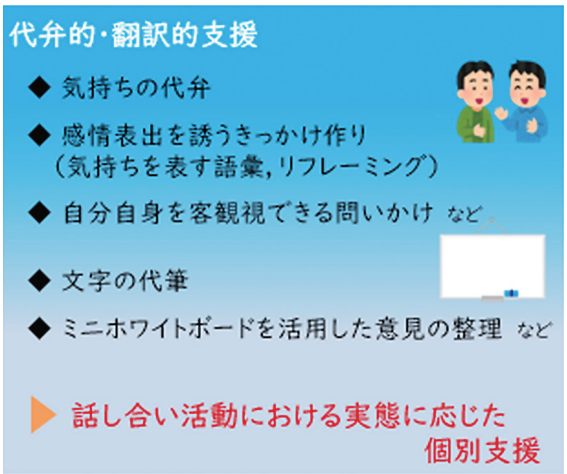

図２　代弁的・翻訳的支援

②アイスブレイクゲーム

好きなものや好きな活動などのテーマに応じて，生徒同士で質問し合ったり，関わったりする活動を通して，リラックスして話ができる雰囲気を作れるようにした．

③題材に関連した写真や動画の視聴

題材に関連した各教科等での活動時の生徒の写真や動画を提示し，そのときに感じた気持ちなどを振り返って考えることができるようにした．

④意見交換

ミニホワイトボードやワークシートを活用して，教師がやり取りしながら，気持ちを表す語彙を提示したり，生徒の気持ちや考えなどを整理したりできるようにした．整理した気持ちなどを基に，生徒同士で発表し合ったり，考えたりできるようにした．

⑤まとめ（発表・意見等の共有等）

各自が考えたことや感じたことを発表し，日常生活における自分の課題に対して，どんな気持ちで向き合い，行動に移していくかを考えるようにした．また，互いの気持ちや考えを知ることで，自分の気持ちの発現に気付くことができるようにした．

７）生徒の実態

本校中学部には，知的障害のある18人の生徒が在籍している．自閉症スペクトラム障害，ダウン症等，障害の種類や障害の程度は多様であるとともに，幅広い発達段階の生徒が在籍している．生徒のコミュニケーションの実態は，言葉で心情を説明することができる生徒，写真やイラストから選択して気持ちを伝えることができる生徒，表情やジェスチャーなどで感情を表出することができる生徒など多様であるとともに，自分の力を活かして話し合い活動に取り組む姿が見られる．コミュニケーションの実態は

幅広いが，生徒同士で互いの気持ちや考えを認め合う姿が見られている．

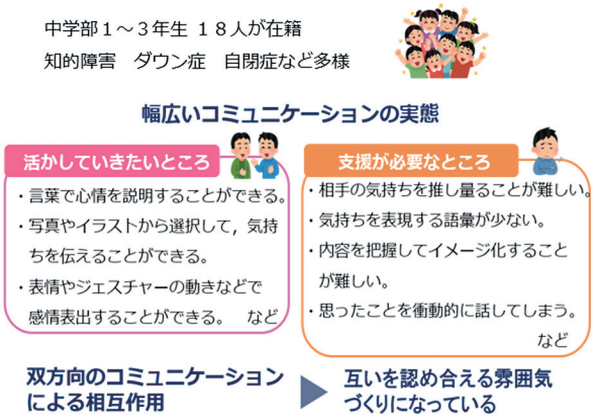

図３　生徒の実態

３．授業実践

１）事例Ⅰ　「『みんなのために』とは，どんなこと？」

小学校学習指導要領　特別の教科 道徳

内容項目Ｃ（主として集団や社会との関わりに関すること）

〈勤労・公共の精神〉

【第１回　一斉授業】

①題材について

生徒は，給食や掲示などの係活動を担い，学校生活の充実に向け，取り組んでいる．しかし，自分の仕事以外は，「いずれ誰かがするだろう.」「誰かがしてくれるだろう.」との意識が強く，待っている姿が見られる．そこで，自分が気付いて取り組んだことがみんなの役に立つという喜びについて考えることができるよう題材設定とした．

②授業づくりのポイント

○写真の活用

教師が掃除をしている様子や，生徒がトイレのスリッパを並べている場面を写真で提示し，どんな気持ちで行ったのかを考えやすいようにした．

図４　トイレのスリッパを並べる様子

○気持ちカードの活用

発表者に対して，「いいね」「すごいね」のカードを１つあるいは両方選択して提示できるようにした．友達の取り組んでいる係活動や役割に向けた気持ちや考えを互いに賞賛できるようにした．

図５　気持ちカード

③実践

教師が生徒昇降口などを掃除している写真を提示し，生徒に「だれのため」「何のため」「どんな気持ち」などと質問し，クラスごとに話し合いを行った．

生徒は教師とやり取りしながら，「先生たちは，学校のみんなのために，掃除をしてきれいにしてくれている.」や「大変だけど，みんなが喜んでくれるし，勉強しやすいようにしてくれているのではないか.」との考えを発表することができた．

次に，自分がみんなのために頑張っていることや役割として取り組んでいることを考え，意見交換をした．

全体発表では，男子生徒Ａは，教師とやり取りしながら，給食後にみんなのエプロンを洗濯していることや，このことを毎日欠かさずに取り組んで頑張っていることを発表することができた．友達から，「いいね」や「すごいね」のカードが多数挙がり，自分の行動が認められたことに喜び，笑顔を見せていた．また，その行動が教師や友達から「ありがとう.」と賞賛され,みんなの役に立っていることを実感し，「これからも毎日頑張りたい.」との気持ちを発表することができた．

図６　気持ちカードを使った発表

【第２回　グループ別授業】

①題材について

前時の題材を引き続き取り上げ，日頃自分たちが取り組んでいる活動に着目し，各自がみんなのためにどのような行動をすると役に立つのかを考えたり，

自分の何気ない行動がみんなの役に立っていることを感じられることができるようにしたりした.

②授業づくりのポイント

〇模擬体験

友達が取り組んでいる行動（トイレのスリッパを並べる）を体験し，取り組んだ理由や気持ちについて考えやすいようにした.

〇心情カードの活用

ポジティブ（ピンク），ネガティブ（グレイ）のカードを選択し，模擬体験後に感じた気持ちを表現できるようにした.

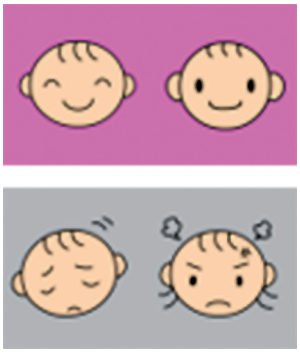

図７　心情カード

③実践

実際にトイレに行き，左右方向が揃っていないスリッパなどを見て，感じたことや考えたことについて意見交換をした.

生徒からは，「揃っていないと使いにくい.」や「脱ぎ捨てるのはよくない.」などの意見が上がった.

次に，トイレのスリッパ並べを体験しながら，どのようにすればみんなが気持ち良くトイレを使うことができるかを考えるようにした．教師とやり取りしながら，「スリッパがきれいに並んでいるのは気持ちが良い.」や「（友達も）自分が感じたように嫌な気持ちになるかもしれないことが分かった.」など，自分が行動することの大切さに気付くことができた.

次に学校生活において，各自がみんなのために取り組んでいることについて考えた．生徒からは，「教室を移動するときに電気を消している.」や「掃除道具をまとめて片付けている.」などと発表することができた．また，「男子生徒Ｂ君は，教室のドアが開けっ放しだと必ず閉めてくれている.」と友達の行動を賞賛する声も聞かれた．Ｂくんは，自分が当たり前にやっていることが，みんなのためになっていることに改めて気付くことができた.

友達の取組を聞き，「自分でもやってみたい.」との声も聞かれ，更にみんなのために取り組みたいとの意欲につなげることができた.

図８　意見交換時の教師とのやり取り

２）事例Ⅱ　「マラソン大会の時の自分と向き合おう」

小学校学習指導要領　特別の教科 道徳

内容項目Ａ（主として自分自身に関すること）

〈希望と勇気，強い意志〉

①題材について

毎年２月にマラソン大会（以下，「大会」という.）に向けた持久走に取り組んでいる．生徒の体力に応じて適切な距離を設定したり，自己の目標を持って意欲的に取り組めるように記録表を活用したりして，個々の力を十分に発揮できるよう工夫している.

しかし，自分自身の「苦しくて諦めたい」といった弱さや「今よりも速く走りたい」といった願い，または「友達に負けたくない」といったより高い目標を目指すことを意識して取り組んだ経験が少ない.

そこで，これらの気持ちに気付き，自分と向かい合って，努力する自分自身の姿について考えることができるようにするとともに，強い意志を持ち，粘り強くやり抜くことの大切さに気付くことができる題材設定とした.

また，自分と向かい合って努力したときの気持ちを友達と共有して振り返りながら，自分自身や仲間との高め合いの良さや大切さなど，これからの生活でどのように活かしていくかを考えるようにした.

②授業づくりのポイント

〇写真や動画の活用

各自の大会当日の走っている様子や表情などに着目し，走る際中の心の葛藤について振り返って考えやすいようにした.

〇iPad やアプリの活用

「気持ちの棒グラフ（教材サイト Teach U より）」を iPad で操作し，走る際中に自分と向き合う中で感じた複雑な心の葛藤を表情イラストと４色の濃淡で視覚的に表現できるようにした.

〇保健体育との連携

毎回の練習後に，努力したことやそのときに感じた気持ちを振り返って周回数記録カードへ記入した

り，感じた気持ちを表情イラストから選んだりすることができるようにした．

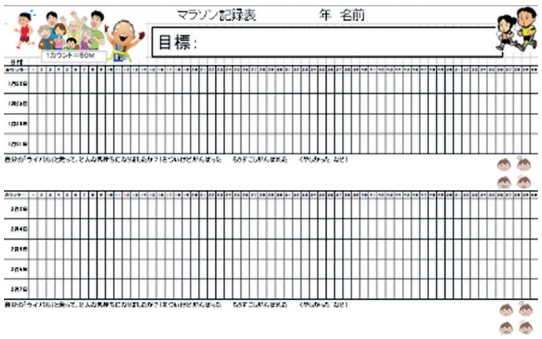

図９　周回数記録カード

③実践

大会前の授業では，持久走で苦しくて諦めたい時に，自分とどのように向かい合うかについて，昨年度と今を比較しながら考え，クラスで意見交換を行った．生徒は，教師とやりとりしながら，苦しくなったら歩きたくなることや諦めてしまうかもしれないとの不安があること，きつくても最後まで頑張り抜きたい気持ちがあること等を確認し，ワークシートにまとめていった．自分の弱い面を含めて，自分と向かい合って考える様子が見られた．目標発表では，「友達に負けたくない.」「きついけど最後まで頑張って走りたい.」など，目標に向かう気持ちを発表することができた．

大会後の授業では，大会当日の写真を用いて走っている時の表情に着目し，走っているときの心の葛藤について振り返った．生徒は，友達を追い越したり，追い越されたりしたときや苦しくて歩きたかった時の気持ちの変化を思い出し，「気持ちの棒グラフ」の表情イラストや４色の濃淡等を用いて表現し，発表することができた．

男子生徒Ａは，「今年は，諦めずに走り抜くことを目標に頑張って走った．そうすると目標の周回数を超えることができ，自信がついた.」と達成感を発表することができた．また，男子生徒Ｂは，「最初は友達と競っていたが，走っている途中できつくなった．その時，最後まで力一杯走りたいという，きつさを乗り越える気持ちへと変わっていった.」と発表した．大会当日の自分に向かい合うとともに，諦めずに走り抜こうという強い意志の発現に気付くことができた．

更に，男子生徒Ｃが「友達の発表を聞き，大会当日に自分も走る距離を伸ばそうと頑張っていたことに改めて気付くことができた.」と発表した．友達の頑張りに着目したことで，自分に向き合った場面を思い出し，自身の頑張りを改めて認識することができた．

女子生徒Ｄは，教師とやりとりする中で，走り終えた後のきつかった気持ちを「気持ちの棒グラフ」の中から悲しい表情イラストを選択し，表現することができた．その発表を聞いた生徒の１人が，「きつかったときの気持ちがよく分かった．でも，よく顔を上げて頑張っていたよ.」と声を掛け，拍手で賞賛していた．女子生徒は，友達からの賞賛を受け，「きつかった」という気持ちが「歩かずに最後まで走り抜いてよかった」と変わり，笑顔を見せていた．友達の賞賛により，自分の頑張りを認識する姿が見られた．

図10　授業風景 iPad の操作

４．成果と課題

本実践の成果として，以下のことが挙げられる．

１）各教科等との関連における題材の選択・設定

年間指導計画を用いて，行事や生活単元学習と関連させるとともに，全員が共通した体験的行為や活動を通して，学んだ内容と道徳的価値を照らし合わせ，考えを深めることができた．また，友達の気持ちや考えを共有し合うことで，互いの気持ちや意見が比較しやすくなった．より多面的・多角的に自分の気持ちに触れ，向き合えたことで道徳的価値について深く考えることができた．

２）思考や表現を促す代弁的・翻訳的支援

気持ちの動きを表すためのイラストカードやiPad，写真や動画の活用など，多様な表現方法を準備し，生徒の実態に応じて気持ちの表現を促すことができた．また，教師がやり取りしながら，気持ちを表す語彙を提示し，ミニホワイトボードを活用して言語化したり，問いかけによる丁寧に気持ちを引き出したりすることなど，教師の補助自我的なかかわりを通して，生徒の思考の広がりや深まりを支援した．代弁的・翻訳的な支援は，生徒自身の気持ち

への気付きや思考・表現を促し，ひいては生徒同士の共感を促す支援になったと考えられる．

３）題材に応じた授業体制

一斉授業で取り組むことにより，各自が感じた気持ちや考えを互いに共有したり，認め合ったりすることができた．また，友達の気持ちや考えに着目したことで，自分と向き合った場面を思い出すなど，互いの意見を参考にしながら考えを深めることにつなげることができた．

グループ別授業では，生徒の実態や発達段階に応じた教材やワークシート，ロールプレイ等で，より丁寧に自分の気持ちや考えを教師とやり取りすることができ，自分と向き合って考えを深めることができた．

課題としては，以下のことが挙げられる．

授業を通して，各題材については自分のことに置き換えて考えることはできたが，日常生活における各自の課題に対しては，どんな気持ちで向き合い，行動に移していくかを意識して過ごす経験が少ないと考える．そこで，今後も学校生活や家庭生活で課題となる場面を写真や動画で提示して考えたり，実際に体験したりして，自分と向き合い,言葉や態度で表現するなど，生徒の発達段階に応じて段階的に取り組んでいきたい．

また，題材設定においては，道徳の内容項目や概要，学年段階ごとの指導の要点と照らし合わせ，生徒の発達段階や発達の変化の様子などを見取りながら，題材や内容の取扱い方を検討していきたい．

引用文献

○：文部科学省（2017）【小学校学習指導要領　特別の教科道徳編】